

クラス番号	331	担当教員名	安藤 佳珠子
テーマ	メンタルヘルスの課題を呈する子ども・若者に対するソーシャルワーク		
著書・論文 研究課題等	<p>安藤佳珠子（2022）「ひきこもりの若者に対するソーシャルワークを『葛藤』の概念を用いて説明することは可能か?」『地域ケアリング』Vol.24 No.8、p102-105、北隆館</p> <p>安藤佳珠子（2020）「精神保健領域でのソーシャルワーカーの立場から」『実践から学ぶ 30分カウンセリング多職種で考える短時間臨床』p.129～148、日本評論者</p> <p>安藤佳珠子（2019）「ひきこもりの若者の生きづらさに対するソーシャルワークの意義—不安定化・個人化する移行に焦点をあてて—」『長崎国際大学論叢』第19巻、p.125～136、長崎国際大学</p>		

## ゼミナール概要

キーワード：思春期 青年期 若者 メンタルヘルス・ソーシャルワーク

### 目的

不登校やひきこもり、摂食障害、家庭内暴力、リストカット、非行などで、ソーシャルワークを必要とする子ども・若者がいます。なかには、精神科医療の介入が必要となる子ども・若者もいます。医療的介入は、その介入が濃密であるほど、思春期や青年期の子ども・若者にとっての当たり前の生活—友だちや学校、部活、恋愛、趣味、習い事、地域活動、アルバイトなどが保障されにくくなります。医療的介入を必要とする子ども・若者が、当たり前の生活を送るために、ソーシャルワーカーにはどのような取り組みが求められているのでしょうか。本ゼミでは、主にメンタルヘルスの課題を呈する子ども・若者に対するソーシャルワークを学ぶことを通して、

- ① メンタルヘルスの課題を呈する子ども・若者が、患者としてではなく、自分の人生の主人公として生きることを保障するためのソーシャルワークについて考えること。
- ② メンタルヘルスの課題を呈する子ども・若者を、ソーシャルワークの対象者としてではなく、同時代を生きる仲間として捉え、これからの社会で、自分たちに何ができるかを考えること。
- ③ ゼミ発表や卒業論文に取り組むことを通して、(i)自分の考えや意見を他者にわかりやすく伝える自分なりの方法を見つけること、(ii)他者の考えや意見に対して関心をもつこと。
- ④ ゼミのメンバーとの育ち合いを通して、一人ひとりが自分に気づき、社会で主体的に生きることについて、自分なりの答えを出していくこと。

### 授業計画：

時期	内容・方法等
3年生前期	<ul style="list-style-type: none"> <li>• メンタルヘルスの課題を呈する子ども・若者の実態について、文献学習を行う。</li> <li>• プレゼンテーションの方法やレジュメづくりについて学ぶ。</li> <li>• ゼミ合宿の計画を立てる。</li> </ul>
3年生後期	<ul style="list-style-type: none"> <li>• ゼミ合宿を振り返る。</li> <li>• メンタルヘルスの課題を呈する子ども・若者に対するソーシャルワークについて、文献学習やフィールドワークを中心に学ぶ。</li> <li>• 卒業論文のテーマを決める。</li> <li>• 現時点での自分の進路について考える。</li> </ul>
4年生前期	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 進路選択を通して、社会で主体的に生きることに向き合う。</li> <li>• 夏休みまでに、卒業論文を仕上げる。</li> </ul>
4年生後期	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 国家試験対策に取り組む中で、どんなソーシャルワーカーになりたいかについて深めていく。</li> <li>• ゼミのメンバーとの育ち合いや、そのなかでの自分の育ちを、全員で振り返り、ソーシャルワーカーにとって、他者とともに育つことの大切さについて理解する。</li> </ul>

## 担当教員からのメッセージ

2年生のみなさんとは、精神保健福祉制度論、保健医療福祉特講でお出会いしていますね。私はこれまで、精神保健の現場で、摂食障害やひきこもり、家庭内暴力、統合失調症、社会不安障害、発達障害、知的障害等の診断がつく若者と出会ってきました。彼らとの出会いのなかで、ソーシャルワークの楽しさを学んできました。ゼミでは、ソーシャルワークの楽しさを、みなさんと深めていきたいと思えます。

また、ソーシャルワーカーを目指していなくても、このゼミのテーマに関心がなくても、ゼミのメンバーとの育ち合いを大切にしたいという学生さんなら大歓迎です。3・4年生は、実習に卒論に国試に就活に、たくさんのハードルが待っています。一つひとつのハードルをみんなで乗り越えながら、一人ひとりが自分の育ちを実感できるゼミにしましょう。質問などはメールで受け付けていますので、ご連絡ください (andoka@n-fukushi.ac.jp)。4月にみなさんと出会えることを楽しみにしています。